

定年退職される先生方からのメッセージ

経済学部教授
水川 備



本学に36年間在職し、多くの学生と接してきた。この経験から私は諸君に「青年時代にしっかりと基礎的なもの身につけるよう努力してほしい」と言いたい。このことは今も昔も変わらない。

基礎的なもの身につけよう

孫過庭(中国・唐時代中期の人)は、『書譜』の中で「学乃少而可勉」(学は乃ち少くして勉む可)とながらう。主な担当は「産業組織論」

経営学部教授
竹村 憲郎



30歳で入職し、ちょうど40年、片道100分の道のりをあまり休むことなく通勤した。通勤に費やした時間は相当数に達し、小田急と地下鉄で仮寝した時間も半端ではない。この間に

独断と偏見? いや一月三舟

学部長や研究科長も体験したが、生来「独断と偏見」に陥りやすい私としては、「一月三舟」を心がけてきた。川面の三隻の舟から澄んだ月を見ると、南に行く舟からは月が南に動いているように見え、北に行く舟からは月が北に進んでいるように見え、止まっている舟からは月は動いていないように見える。物ごとは人によってさまざまに異なって見えるという、仏教の教えである。

文学部教授
長島 博



1962年に入職し、約半世紀の間、保健体育の教員として在籍しました。勤続48年、賞罰なし、病欠、休講なし。健康で体力が人より多少あったのだらうと思っております。

学生と付き合い 教員仲間と議論

現在、専修大学の教育環境完成度は約7割程度だと思っております。今後は社会状況や少子化問題により、大学進学者の増加が見込まれますが、本学では学部の増設、定員の増加、教育環境の改良などに努力してきたのが、現在の姿です。

文学部教授
ボレッタ ウイリアム



「それぞれの始まりには魔法が宿っている」。20世紀ドイツの小説家・詩人のヘルマン・ヘッセの言葉です。卒業生の皆さんに相応しい言葉です。皆さんは学業を修め、新たな始まりを迎えます。英語では卒業式を commencement ceremony... 新たな始まりのお祝い...と呼びます。さあ、魔法が皆さんを待っています!

新たな始まり 魔法宿る道に

皆さんが踏み出す世界はもはや書物や文書の世界ではありません。私たちがコンピュータや iPod・iPhone・iPad といったハイテクに象徴されるデジタル時代を生きています。しかし、情報メディアが画面からシリコンチップへと変わったとはいえ、私たちは人間であり、人間の心情は変わっていません。人生何をするにしても、心の奥で強く感じるものがないなら、やっても意味がないでしょう。自分の本当にやりたい道を選べば何時でも幸せでいられます。

経営学部教授
高澤 十四久



礼儀をわきまえていれば、他の人との問題は最小限に抑えられ、たいしては解決に至ります。その逆も真実です。無作法な振る舞いは、争い、憤り、悲しみを生じさせます。

まずあいさつ「聞き」上手に

どんな言い訳をしたとしても無視された人をなだめることはできません。対策は簡単です。まずは優しい笑顔であいさつし、話しかけることです。よそよそしくなったり、冷淡になったりしないようにすれば、良い結果が得られます。

文学部教授
亀井 明德



その一、1988年の入職以来、おおよそ1300人の学芸員を社会に送り出した。彼らが各地で活躍していることは、教師として最も嬉しい。

思いを遺して...本学を辞す

本学からの実習生は、寡黙で着実である。いたすらに多弁を弄することは、世間では信用されないが、時には寸鉄人を刺す、鋭く個人的な発言が望まれる。

文学部教授
林 義雄



教員の仕事は木を植える職人のそれに似るところがあります。大樹に育つ可能性を秘めた若木を植えるところまでは自らの任務ですが、それがどのように成長したのかを最後まで見届けなくてはならず、自らの勤めを終えなければならぬ。

風雪乗り越え 大樹になれ!

い。それでもそれぞれの若木の備え持つ力を信じて木を植え続ける...。本学の教員として30年の歳月を過ごしました。その間に、日本のみならず韓国・中国・台湾の学生諸君とも触れ合う機会に恵まれました。その若者たちが学窓を巣立って以後、各地に着実に根を下ろしつつあるのを知るのは、その成長の一端を担った者にとってまことに喜ばしい限り、まさに教師冥利に尽きるものがあります。

法科大学院教授
山本 和昭



今年で5回目の修了者を輩出する法科大学院は、法曹を目指す若人の育成を使命としております。法曹へ進む道には5月に迫った司法試験という関門が待ち受けています。

愚直でも信念を 気骨ある法曹に

私は常々、学生諸君に小回りが効いた要領のよいだけの法曹ではなく、愚直であってもまっしぐらに自己の信念を貫く気骨ある法曹になってもらいたいと話しております。修了者諸君を取り巻く環境は、一極支配から多極化ないし無極化へ、均一性から多様化へと移る変動期のまっただ中にあります。大局を見据えた見識、そして柔軟かつ勇敢な行動が求められています。